

2025夏 JAPAN FAIR テーマ

CHRIST HAS SET US FREE!

キリストは、自由を得させるために私たちを解放してくださいました。

ガラテヤ5:1



オーシャンサイド教会の会堂(右の建物)と駐車場

サンディエゴの青い空

初めてのサンディエゴ！毎日続いた澄み渡る青空がとても印象的でした。柏倉師のここまでの歩みを知る者として、この空の向こうにおられるお方を感慨深く仰ぎました。

滞在中は神学校のキャラバンよりもハードな？！とても充実した日々でした。現地での働きを体験し、祈りがより具体的になりました。また世界宣教の必要と、主が事実世界大のお方であることを知ることができました。恵みに溢れた本当に幸いな10日間でした。



オーシャンサイドでのジャパンフェア



オーシャンサイドでサーフィン



ラ・ホヤでのジャパンフェア

自由とされて主に仕える！

ガラテヤ5:1からのメッセージは、皆さん真剣に耳を傾けてくださいました。自由の国アメリカに住んでいるからこそ、本当の自由への渇きもあるでしょう。ほとんどの方は数年で日本に帰るとのこと。海の向こうの宣教も日本の教会と直結しています。

柏倉家の皆さまには本当にお世話になりました。宿泊場所の準備、片道約60kmの自宅と教会の毎日の送迎、観光案内、洗濯まで！子どもたちも沢山の準備を手伝っていました。「私と私の家とは主に仕える」柏倉宣教師ご一家を主が豊かに労い、祝福してくださいますように。更なる奉仕者も起こされますように。

もう来年のキャラバン募集が始まっています。主に仕える自由と喜びを味わっていただきたいと思います。特に青年や神学生もぜひ！

宮崎北聖書キリスト教会 荒平大輔

“PRAYER IS POWERFUL”

昨年、柏倉宣教師から「来年の夏はこれまでにない大きな伝道イベントを計画しているので、祈ってください」と。私も覚悟を持って主から与えられたビジョンに向かって祈り始め、今回のイベントに挑みました。

開演前、あちこちで奉仕者たちが来会者のために祈っている姿を見て感動しました。

創世記 22：14 「主の山に備えあり」

裏方の仕事が本当に大変！食事の準備に多くの時間を費やした

「ジャパンフェア」と題した伝道イベント。メインは日本食？というわけではありませんが、やっぱり日本食は大人気。その中でも柏倉宣教師の故郷の味である「芋煮」は大好評！

その他にもたくさんの食事を用意！西尾農園から捧げられた野菜や段ボール箱で購入する肉・野菜。皮剥きや仕込みのために、柏倉宣教師と晴香夫人指揮のもと、子供たちや私たち数名の奉仕者、教会の方々と協力して準備。とにかく量がハンパない！朝から晩まで柏倉宣教師夫妻は大変な労力だったと思います。そして柏倉家の子供たちが、一緒になって奉仕している姿は、健気さとたくましさを感じました。宣教師家族は凄い！

ローマ 12：11 「勤勉で怠らず霊に燃え主に仕えなさい」

「賛美は国を超えて一致を生み、神様の愛を体験する時となる」

今回の賛美チームは即席！アメリカのバンドメンバーと合わせる時間が少ない状況の中で祈りながら賛美の打ち合わせ。カタコト英語で...

初めての参加者がいるイベント、賛美に馴染みのない方も恵まれほしいと願い、祈りながらの賛美リードでしたが、まぎれもなく私ではなく主が導きました。

イベント後、初めて参加した方から「賛美がとても良かった」と聞いて、賛美は誰もが主の愛を体験できる時なんだと思い感動しました。

来年のイベントには、日本からもっと多くの方が参加してほしいです。きっと主の愛を体験します。みなさんも祈って、誰かを誘って、準備してくださいね。

詩篇 22：3 「賛美の中に住まわれる主」



日本・アメリカ合同賛美チーム

※教会の敷地内にホームレスが隠れて寝ていたり、宿泊した教会に、夜中すごい音がして…後で教会のガラスが割られていた事が分かり、警察沙汰。携帯に緊急アラートがなり、見ると未成年者の誘拐でした。高校では麻薬を使っている子が普通にいるそうです。日本とは違う危険性があります。そして物価も含めて、宣教師家族は大きなリスクの中で宣教しています。只々御言葉に従って生きています。切に切に、みなさまのご支援・ご加禱をよろしくお願い申し上げます。

佐藤ヒロアキ【柏倉宣教師支援会・委員長、象潟キリスト教会・牧師】



キリストは誰であっても全てに勝る喜び！

キリストは誰であっても、全てに勝る喜び！です。それをノンクリスチアンの高校生が証言してくれました。写真に写っている高校生の一人は、教会も聖書も全くはじめて！という人です。彼は本場米国のメジャーリーグを現地の熱狂と共に体験し、また雲一つない鮮やかなカリフォルニア・ブルーの青空の下、最高に爽快なサーフィンも体験しました。滞在中は喜びと興奮が毎日あり、時間の許す限り様々な事を体験しました。彼の口から『楽しみと限界(体力)の狭間にいる』という名言が出たほどでした。その中で、彼が一番心に残り楽しかったのが、7月末に行った伝道イベントの「Japan Fair」だったということです！！そこには、テーマであったガラテヤ5：1「Christ has set us Free」すなわちキリストによって自由にされたクリスチャン達の本当の喜びが満ちていたからにはほかならない。それを彼が感じたのです！ハレルヤ！



Missions Door
サンディエゴ日系キリスト教会
柏倉 秀吉・晴香

サンディエゴ邦人宣教の今後と来年のキャラバン隊

今後のサンディエゴ邦人宣教は、何と言っても現在オーシャンサイドとラホヤの2箇所で行っている教会の成長です。そのためには寝てもいられません。また止まってもいられません。もし私がこれを肉の行いでしているならいずれ何かが止まるでしょう。しかし聖霊は決して止まりません。途中で無くなることもありません。御国に行くまで、エリヤが火の戦車と馬で天に上げられたように、その時まで走り抜けたと思います。私の場合は「喜びと限界の狭間」で。

キャラバン隊については、本当は毎年募集するつもりはありませんでした。しかしこれまでの3年間、毎年キャラバン隊を受け入れさせていただき、迎え入れる側も送り出されてくる側も双方に大きな恵みがありました。特にノンクリスチアンの高校生が、教会の伝道イベントが一番楽しかった！と言っているのですから、呼ばない手はありません。それにメジャーリーグも人気です。どうぞ今から計画して、積み立てて下さい。来年お待ちしております！日程は7月中旬以降、予算は一人25万円程度(航空券、保険、宿泊、一部食費込み)

問合せ：佐藤ヒロアキ支援会委員長

☎090-1379-5564

✉ satohiroaki0712@gmail.com



MISSIONS DOOR

柏倉宣教師へのご支援の詳細は、右のQRコードから確認できます。



人の重荷を喜んで背負い、希望が輝くキリストの品性

私はカリフォルニアの大学留学中にキリストと出会い洗礼を受けた後、日本に帰国。信仰から離れていた時に大学院のためまた留学、そこで日本人の宣教師に出会いました。その時にしっかり聖書から学ぶ、今の私の土台ができました。振り返ると紆余曲折ありましたが主の愛と恵みにより信仰が与えられた事に感謝しかありません。

さて、今回の短期宣教旅行に参加したのは、海外で救いに導かれた者として少しでも恩返しがしたいと思ったからです。短期宣教中、主から強く思い起こされた1つのエピソードとみことばがあります。

私が大学の女子サッカーチームに所属していたある朝の練習で、私は遅刻しました。オフシーズンで走り込みの練習。ハーフコートは何秒以内に往復し、誰か出来なかったらもう一回。全てを出し切って、吐きそうになってようやく終わった後、コーチが、私を呼びました。「エリコは遅刻した分だけ、ペナルティーで追加！」絶句しました。全員帰っていく中、私がスタートラインに立つと、後ろから2人のチームメイトが来て、両脇に立ちました。「エリコ、一緒に走るよ。」と、彼女達は少し先で手をたたきながら私を励まして、最後まで一緒に走ってくれました。私が何度も謝ると、彼女達は「エリコ、謝らないで。おかげで私もさらに強くなったし、自分の限界を超えられた。むしろ感謝だよ！」そして、私の肩を抱いてレッツゴーと言い、最後に「Thank you coach!」とコーチにも感謝。私はこの事を一生忘れません。これが、私の初めてのクリスチャンとの出逢いでした。人の重荷を喜んで背負い、全てに感謝する。クリスチャンアスリート達は、明らかに、他の誰とも違いました。彼女達は、キリストの品性を持っていました。

今回、共に奉仕をしたチームが一丸となって仕えましたが、彼らみんな、自我を捨てて自主的に喜んで役割を果たす姿はとても自然体でした。見える結果や数字に左右されず、「ここに主が働いておられる」そんな希望が信仰の中で輝いていたからだと思います。私もこの品性を、日々の信仰生活の中で培っていききたい！そんな生き方に変えられたいと大きな刺激を受けました。

「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。(ローマ5章：3～4節)」

日本で会社勤め15年以上、(奇跡的に)2週間の休暇を得て久しぶりの海外でした。宣教チーム一丸となって仕える中であらためて感じたのは、やはり文化の違いです。私が個人的に思うに、聖書の教えが浸透している海外では、私は私以上でも以下でもない。ありのままの自分をただ事実として受け入れてくれます。周りに対しても同じで、だからこそ冷静に客観的に考えることができ行動します。さばくというよりは、合理的な判断をもって理想を求めます。

日本文化では、私以上にも以下にもなります。ありのままの自分ではなく、こうあるべきな自分(周囲が求める姿/理想)を追います。周りに対しても同じ、だからこそ客観的に協調性を重んじ行動します。無意識に理想と比較をし、感情的に人も自分もさばきがちです。

よく言われる海外と日本との違いですが、こうしたことからあらためて海外で福音が届きやすいというのがよく分かります。海外で違う価値観や文化にふれることで、やっと自分がどんなスタンスに立っているのか見えてくるので、そこで何を信じ自分の土台とするのか、「選ぶ」ことが出来ます。選択している自覚がなければ、自由意志も責任もありません。

日本で生活しているとただ「しょうがないから」とどこか流されて、自分で考え、責任をもって選び、行動する生き方から逃げてはいないかと思われました。

宣教チームのメンバーの中には、教師だったりSEだったり主たる仕事は様々でしたが、主と共にあるという軸がぶれないフリーランスのようなスタンスに感じました。色んな信仰の話が出来て学ぶことがたくさんありました。私の他にも、同じようにアメリカでキリストと出会って聖書を学び、帰国して家族やその友人も救われているのをたくさん見てきました。確かに、海外宣教と日本宣教は直結しています。また、このように海外で日本からの宣教チームを受け入れる柏倉宣教師ご家族の存在はとてつもなく貴重です。もっともっと宣教旅行が盛んになり、日本での宣教にも大きな恵みと祝福となるようお祈りしています。

違うからこそ見える自分の姿
自由意志と責任を果たす

